

カトマન્ズ・バンコク慕情 ～アジアの旅の徒然に

by HIKARUNO



GOKRAK

2007年8月12日

ブログのスタートは下記のように始まっている。

ブログを始めようかと思い、登録はしてみたものの、なかなか、筆が進まず、やっと重い腰をあげたところ。

何もしいまま、バンコク滞在も、1ヶ月近く、今月の15日には、ネパールのカトマンズに飛ぶ予定、ネパール航空の全部で2機ある航空機のうち1機の修理が、やっと終わり、今週から運行する予定、もう1機は、いまだに修理中。心配なので、バンコクのパヤタイにあるネパール航空の事務所に直接言って確かめるが、15日と17日は、カトマンズ行きは飛ぶとのこと。どこまで信用できるのか、当日になるまでわからないのが、ネパール航空だ。

hikaruno [2007/8/12\(日\)](#)

秋近し！



タマン族によるバンダ（ゼネスト）も終わり、いつもの騒がしいカトマンズに戻る。交通量もいつもにも増して、道路は、渋滞気味。何のためのバンダだったのか、理由もわからぬまま、バンダはおわってしまった。カトマンズ市民に聞いても、はっきりした答えは、返ってこない。

今まで止まっていたゴミの収集も本格的に再開され、ツリップレソールのアーミーキャンプの横にずらりと並んで ゴミを積んだまま放置されていたゴミ収集トラックも、今日は数少なくなっている。この脇を通り過ぎる時の臭さといったら、凄かった。到る所にばい菌がはびこっているカトマンズ、そのせいか、流行性の眼病が流行っている。

3日間続いた、上天気、季節もそろそろ、秋に向かい始め、お祭りシーズンも始まった。今週にも、ガイ・ザットラが始まるはずだ。日中は、少し動き回ると汗をかく暑さだが、夜は、すっかり涼しくなり、扇風機をかけたまま寝ると、風邪を引いてしまいそうだ。今日もタメル地区、日本人のバックパッカーのたまり場であるアティティツアーに顔を出す。今日は結構旅行者が多い。

タメル地区は、今日（木曜日）は、計画停電の日、夕方6時から8時までは、暗い世界。
家への帰り道、懐中電灯を探している若い旅行者2人に会う。
タメルのトレッキング用品店の懐中電灯は高いというので、マハボーダにある
チャイナバザールへ案内する。
このバザールでは、中国からの多種多様の工業製品が売られている場所だ。
彼ら、130ルピーで望みの懐中電灯を、ゲット。

2007/08/24



カトマンズの水事情は、年々悪くなる一方である。

私の住んでいる地域では、2日に1度、2時間の政府の水道局からの給水がある。

その日が、計画停電の時間に当たれば、アウトである。

というのも、カトマンズの水の供給は、ただ、水源のバルブを開けるだけで、圧力をかけて水を供給するわけではない。

そのために各家庭で、モーターを用意して、水道局から供給される水を、自分の所に引き込む必要がある。

もし停電であれば、モーターが使えず、水を引き込むことが出来ないのである。

私の住んでいる地区は、計画停電が、土曜日と日曜日であるから、週のうち1度は、水の供給と停電がぶつかることになり、水を供給は、週3日ということになる。

私の住んでいる建物は、1階に学生が6, 7人、2階が私、3階に大家の家族が4人住んでいる。

12人近い人間に必要な水が、政府の供給する水だけで足りるはずが無いのは当然のことである。

それではどうするか、地下水を掘るのである。

カトマンズ盆地は、大昔は、湖であった場所、長い鉄製のパイプを10メートル近く地面に差し込めば、水は出るのである。

ところが、ところである。当たるも八卦、あたらぬも八卦ではないが、場所によっては、到底、飲み水には適さない、マンガンと鉄分をたっぷり含んだ地下水に当たり、これもアウトである。私のところでは、2度チャレンジして、一度目は、鉄分を含んだ水、2度目に場所を代えて、やっと良質の水に出会い、めでたしめでたしと思いきや、雨期には地下水の水位が上がり、モーターを使って水をくみ出すことが出来るが、乾期ともなれば、地下水の水位が下がり、手押しポンプとモーターを共用しないと、地下水を汲み出すことが出来なくなってしまふ。

各自1日1、2時間の手押しポンプの作業に勤しむことになる。なかなかの重労働である。

この国には、国民のことを、真剣に考える政府も 政治家もいない。

自分の生活は、自分で護るしかないのである。

カトマンズに水を供給するというプロジェクトは、10年以上前からあり、各国からの援助があるはずだが、いつの間にか、予算がそこを尽き、いつまで経ってもそのプロジェクトは完成しない。

お金はどこに消えてしまうのであろうか。

ここ15年の間に、カトマンズは 爆発的な人口増加をしてしまったが、それでも どう見ても改善されつつあるとは、思われぬ、あるいは政府が努力しているとは思われぬカトマンズの水事情である。

掲載する写真は、今から4、5百年前のネワールのマッラ王朝時代のものであると思われる水場である。

。

10年前には、ここで洗濯する市民の姿も見られたが、今はどうも使われていないようだ。

こういう水場がカトマンズの到る所にある。

今のネパールの政治は、この時代以下である。

互いの権力争いに明け暮れ、国民のことなど、まるっきり念頭に無いのである。

2007/08/26